

# 元町こども図書館と竹丘・野塩・下宿図書館が なくなるってほんと！？

## 図書館の存続を求める有志グループから緊急署名のお願い

代表 福本麻紀 松山 2-3-14 042-495-2713

呼びかけ人(あいうえお順) 阿久津たか子・安藤ユキ・岩崎美智子・鹿島一子・鹿島真人・  
肥沼由美子・小松原直子・島袋裕美・中村恵美・福本麻紀・二ツ木日和・古川寧子・横山久美

この度、清瀬市は清瀬市3月議会に図書館の指定管理者への委託と、元町こども、竹丘、野塩、下宿図書館を来年度いっばいで閉館する内容の条例案を提案しました。このことについて、この提案を見直し、清瀬市の宝である図書館6館を存続させ一層の充実を図るとともに、4館閉館を含む条例案の撤回を強く求めます。その理由は次の通りです。

○地域の公共図書館はこどもも含め市民にとって様々な本との出会いをはじめ、知識や情報を無料で得られる極めて大切な知的インフラです。公共図書館はユネスコの公共図書館宣言や図書館法でその意義を謳っているように、市民一人一人がこころ豊かな人生を送るために欠くことのできない文化環境を支える重要な公共財産でもあります。

○現在の図書館6館体制は清瀬の宝であり、大いに誇れるものです。地域に根差した竹丘、野塩、下宿図書館には、こどもから高齢者まで多くの利用者がいます。そして元町こども図書館はこども達にとって利用しやすい素晴らしい施設です。こども図書館を核にして、それぞれの地域にあるこどもコーナーも充実しており、こども達が手にとってみて本を選ぶという貴重な体験ができる場となっています。このような体験は宅配サービスでは得られないものです。それは0-14歳の利用が20%もあるという数字にも表れているのではないのでしょうか。

○4館を閉館することで利用者、特にこどもや高齢者がアクセスしづらくなり、文化環境を貧しくしてしまうこととなります。閉館は活字離れに拍車をかけてしまうおそれもあります。これは明らかに市民サービスの後退です。無料の駐輪場のある元町こども図書館を駅前図書館に移設とありますが、駐輪場不足で親子やこども達が明らかにアクセスしづらくなると考えられます。現在場所が異なるからこそこども達が気兼ねなく利用できるという利点も、移設によってなくなります。

○閉館案決定までのプロセスがあまりにも乱暴ではないのでしょうか。全年代の市民生活に関わる図書館閉館という重大な方針について、明確な根拠が示されていません。こどもを含め市民に広く周知することもないまま決定する手法について、疑問を感じざるを得ません。読書離れが進む中で、逆に清瀬市民の重要な文化財産である図書館事業の一層の充実と工夫が求められています。

**お願い①公共図書館の存在意義を改めて見直し、図書館の存続を求める緊急署名にご協力ください。**

**署名はその意思があれば大人同様こどももできます。こどもの意見表明権を尊重しましょう。**

②3月15日(金)10:00より総務文教委員会で審議 みんなで傍聴しませんか(市役所4階)。

③3月28日(木)本会議での討論採決 みんなで傍聴しましょう。こどもも入ることができます。



今回の提案を見直し、清瀬市の宝である図書館6館を存続させ一層の充実を図るとともに、4館閉館を含む条例案の撤回を強く求めます。その理由は次の通りです。

○地域の公共図書館は子どもも含め市民にとって様々な本との出会いをはじめ、知識や情報を無料で得られる極めて大切な知的インフラです。公共図書館はユネスコの公共図書館宣言や図書館法でその意義を謳っているように、市民一人一人がこころ豊かな人生を送るために欠くことのできない文化環境を支える重要な公共財産でもあります。

○現在の図書館6館体制は清瀬の宝であり、大いに誇れるものです。地域に根差した竹丘、野塩、下宿図書館には、子どもから高齢者まで多くの利用者がいます。そして元町子ども図書館は子ども達にとって利用しやすい素晴らしい施設です。子ども図書館を核にして、それぞれの地域にある子どもコーナーも充実しており、子ども達が手にとってみて本を選ぶという貴重な体験ができる場となっています。このような体験は宅配サービスでは得られないものです。それは0-14歳の利用が20%もあるという数字にも表れているのではないのでしょうか。

○4館を閉館することで利用者、特に子どもや高齢者がアクセスしづらくなり、文化環境を貧しくしてしまうようになります。閉館は活字離れに拍車をかけてしまうおそれもあります。これは明らかに市民サービスの後退です。無料の駐輪場のある元町子ども図書館を駅前図書館に移設とありますが、駐輪場不足で親子や子ども達が明らかにアクセスしづらくなると考えられます。現在場所が異なるからこそ子ども達が気兼ねなく利用できるという利点も、移設によってなくなります。

○閉館案決定までのプロセスがあまりにも乱暴ではないでしょうか。全年代の市民生活に関わる図書館閉館という重大な方針について、明確な根拠が示されていません。子どもを含め市民に広く周知することもないまま決定する手法について、疑問を感じざるを得ません。読書離れが進む中で、逆に清瀬市民の重要な文化財産である図書館事業の一層の充実と工夫が求められています。